

第4学年 社会科学習指導案

日 時 平成15年9月3日(水) 5校時

場 所 4年2組 教室

児 童 4年2組 男子18人 女子16人 計34人

授業者 山 崎 愛

1 単元名

「きょうどにつたわるねがい」 — 野田の塩作り —

2 単元について

(1) 本単元のねらい

本単元は、学習指導要領小学校第3・4学年の目標及び内容(5)「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」を受けて設定したものである。

この単元では、昔の人々のくらしの様子や地域の人々の生活を向上させるために努力した先人たちの様子を調べ、地域の開発に果たしてきた先人の働きについて理解したり、当時の人々の願いや苦心について考えさせたりしていく。

(2) 教材について

野田村では、海水を利用した塩作りが昔から行なわれており、江戸時代には南部藩の生産を担うほど製塩が盛んであった。それは、野田村は冷涼な気候のため米はほとんどとれない状況で、稗や粟などの雑穀の生産はあったものの地域内の食糧自給は厳しく、飯米などの生活必需品を確保するためには商品価値の高い塩を作り、内陸地へ運び米などの穀物と交換していくほかなかったためである。

また、野田村の製塩は、「直煮製塩」という独特の方法で行なわれていた。これは、リアス式海岸で水汲みに都合がいい場所があったことや、砂鉄鉱山があり鉄釜が安く手に入ったこと、また、燃料となる薪が入手しやすかったことなど条件がそろっていたためである。しかし、海水を鉄釜に入れ薪を燃やながら一昼夜かけて煮詰めていくこの製塩方法はかなりの重労働であった。

作られた塩は、牛に乗せて2泊3日かけて内陸へ運び、物々交換によって米・大豆などの穀物や日用品を得ていた。塩は内陸の人々にとっては貴重なものだったので、塩1升と米1升、さらに沢内や鹿角などの奥地では米3升と交換していた。また、輸送物資・商品の拡大とともに専業の牛方も現れた。

こうして、塩が流通することで市日も開設されるなど、村人の生活は安定していった。しかし、明治38年に塩専売制が施行されたことにより、明治43年には野田の塩作りも廃止されることとなった。現在は、野田村の歴史的な特色を生かし、地域の産業の振興につなげ野田塩を後世に残していこうと、平成7年に「ふるさと野田研究グループ」が結成され、さまざまな活動が行なわれている。

(3) 児童の実態について

子ども達は、野田塩を使った商品があることや、塩が海水から作られていること、また塩の道があることなどを知っており野田塩についての関心は高い。しかし、現在、野田塩は盛んに作られているわけではなく、日常生活において直接ふれる機会はほとんどない。そのため、野田で塩が作られた理由やその仕事に携わっていた人々のようすについて考える子どもは少ない。

社会科の学習においては、課題に対する自分なりの考えをもち、本などの資料を使ったりインタビューしたりして、進んで調べようとする子が多い。しかし、調べただけで満足し、調べた事象のもつ意味や働きに気づくまでには至っていない。そこで、調べ学習した内容からその意味を考え学び合う場を設定したり、体験的な活動を位置付け事象に対する見方や考え方を深めさせたりしていきたい。

(4) 指導にあたって

初めに村に残る歴史を探したり、塩作りを体験したりして昔の人々の様子や野田塩について興味・関心をもたせたい。そして、当時の塩作りの様子やその仕事に携わった人々の苦心や努力について考えさせたい。その際、当時の様子が具体的にイメージできるよう拡大した写真等の資料を効果的に活用して、現在と比較しながら考えさせていきたい。また、体験的な活動を位置付けて塩の重要性や塩作りの大変さを実感させながら進めていきたい。

塩の販売については、自分でテーマを選び調べまとめる学習を展開していく。調べ学習を進めていく上で、子ども達の理解することができる資料が少なく、当時の様子を知る手がかりとなるものも少ないので資料はある程度用意していきたい。調べた後、調べたことをもとに人々の願いや苦心について、紙芝居などの表現活動を取り入れてまとめさせたい。

単元の終末では、調べてまとめたものを発表し、それを聞くことで野田の塩について理解を深めさせたい。また、「ふるさと野田研究グループ」の方に来ていただき、そのお話を聞くことで、子どもたちが地域社会の一員としての自覚をもち村の発展を願い、地域社会の一員としての生き方について考えることができるようにしていきたい。

3 単元の目標

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度

当時の人々の生活の様子や野田の塩について関心をもち、塩作りや塩の販売に携わった人々の働きや苦心などを意欲的に調べようとする。

(2) 社会的思考・判断

塩作り・塩の販売に携わった人々の働きや苦心などを使われていた道具を観察したり、実際に体験してみたりしながら考えることができる。

(3) 観察・資料活用の技能・表現

塩の販売に関わる必要な資料を収集したり、地図やグラフなどを読み取ったりしながら調べたことをイラストや文章に表すことができる。

(4) 社会的事象についての知識・理解

塩作り・塩の販売に携わった人々の工夫や努力によって人々の生活が安定し向上していったことを理解することができる。

4 単元の指導

子どもの意識	主な学習活動	教師の支援	評価規準	時間
課題・見通しをもつ	1 歴史探しをし、昔の人々の工夫や願いが分かるものを発表し合い、自分たちのまちの歴史あるものに興味を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域で、昔に作られ今も残っているものを調べ、それらを作った人々の工夫や願いなどを知ろうとする意欲を高めるようにする。 	関 歴史探しを通して、昔に作られたものや、昔の人々の工夫や願いについて調べようとする。	1
	塩作り体験をして、野田の塩への関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 塩はどのようにして作られ、どのような道具が使われているのかということにも目を向けさせながら、塩作りの学習への意欲づけを図る。 	関 塩作り体験から、塩作りやそれに携わった人々に関心をもち、それらを調べようとする意欲をもつ。 思 野田の塩について調べたいことを決め、学習の見通しをもつ。	2
追究する	2 野田村の昔と今の生活の違いについて調べ、なぜ塩作りが盛んに行なわれるようになったのかを話し合い、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 野田地方の気候と作物の収穫状況、食糧を確保するための必要性から製塩が行なわれるようになったことを知り、当時の人々の願いについて考えることができるようにする。 	知 塩作りが盛んに行なわれるようになった理由がわかる。 思 当時の人々の願いについて考えることができる。	1
	3 野田の塩の作り方を調べることを通して、塩作りに携わっていた人々の苦心や努力について話し合い、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 塩の作り方を資料をもとにして調べ、その仕事の内容や使用するものの準備に大変な労力を費やしていたことを実感できるようにする。 野田地方の地形や、その他の条件から野田独特の製塩方法が行なわれていたことを考えることができるようにする。 	思 塩の作り方を知り、その仕事に携わっている人々の苦心や努力を考えることができる。 技 資料などを活用して、塩作りの様子を読み取ることができる。	2
塩の販売	4 塩の販売について、「塩のゆくえ」「牛と牛方」「塩の道」の中から調べる内容を選択し、資料をもとに調べたり、地域の人に質問したりするなどして、塩を販売するための苦心や努力・工夫について調べ、分かりやすく表現する。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの調べる内容を確認し、関心のあるテーマを選択し、調査できるようにする。 子どもが理解できるような資料をいくつか準備する。 調べたことから、地域の人々の願いとその実現のために尽くした先人たちの働きや苦心についても考えることができるようにする。 調べてきたことをもとに、その働きだけでなく、塩を販売するまでの苦心や努力、工夫、また、塩販売に携わっていた人々の願いも伝わるように、イラストや文章でまとめることができるようにする。 	技 見学・資料・インタビューなどから、塩を販売するための、苦心や努力・工夫を調べることができる。 思 調べたことから先人の働きや苦心、地域をよりよくしていこうとした思いを考えることができる。 技 見学・調査して調べたことを、分かりやすくまとめることができる。	3
ふりかかす	5 調べたことを発表し、ゲストティーチャーの方の話を聞き、人々の生活がどのように変わっていったのかを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことの発表を通して、塩の販売に携わっていた人々の働きや願いなどについて感じとらせるようにする。 ゲストティーチャーの方のお話を聞き、先人の働きにより、現在の地域がどのように発展してきたか考えることができるようにする。 	知 地域の昔の人々の願いや、先人の働きにより地域がどのように発展したのかがわかる。	2

5 本時の活動

(1) 本時の目標

昔の塩作りに多くの時間がかかったわけを調べることを通して、塩作りに携わっていた人々の苦心や努力を捉えることができる。

(2) 本時の展開

ア 授業場面の設定

地域素材	問題解決学習の展開		学習時間
人	課題をもつ	学習素材と出会い、興味・関心をもつ	45分
		素材に対して、「なぜだろう」「こうしたい」などの疑問や願いをもち、自己課題をたてる。	
自然的事象	見通しをもつ	問題解決に向けて、見通しをもつ。 ・予想をたてる。 ・解決の方法を選択・自己決定する。	60分
		追究する	自分に必要な情報を取り入れたり、友達とかかわったりしながら、問題の解決を図る。
社会的事象	伝え合う	調べたことや活動の様子を、自分の方法で表現し、お互いの学びを交流し合う。	75分
		ふりかえる	交流をもとに自分の考えや感想をもち、自分の学びに生かす。

イ 判断基準

	評価方法 (方法)	A 十分満足できる	B おおむね満足	Cの児童への 支援
思考・判断 使われていた道具や施設、働いている人やその働き方など と関係づけて理由を考えている。	・課題に対し予想し、自分の考えを記述する場面 (ノート)	・道具や施設、働いている人やその働き方など、さまざまな面から理由を考えて書くことができる。	・道具や施設から理由を考え書くことができる。	・時間がかかったのは、今と昔の何が違うのか考えさせる。
思考・判断 時間がかかった理由をまとめ、塩作りに携わった人々の苦心や努力を考えている。	・本時の学習をふり返り、ノートに記述する場面。 (ノート)	・道具の使い方や働いている人の様子について具体的に表現し、それについて自分の感想をもつことができる。	・塩作りに多くの時間がかかった理由について表現し、自分の感想をもつことができる。	・板書をもとに、学習内容をふり返らせ、理由を考えさせる。

ウ 本時の展開

段階	学習活動	教師の支援及び判断基準	準備
とらえる	1 昔の野田の塩の作り方について話し合う。 2 本時の学習内容を把握する。	・塩作り体験を思い出させながら、昔はどのようにして、塩が作られていたか想像させる。 ・塩ができあがるまでの時間の違いから、学習課題を設定する。	時間のグラフ
5分	むかしの塩作りは、なぜ多くの時間がかかったのだろう。		

<p>追究する</p> <p>35分</p>	<p>3 今と比べて多くの時間がかかった理由を考え話し合う。</p> <p>(1) 自分の考えをまとめる。</p> <p>(2) 考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使われていた道具 (釜・桶) ・施設 (小屋) ・働いている人 (煮る人・水を汲む人) <p>4 発表された内容について調べて確かめる。</p> <p>(1) 塩作りの様子 (写真) から調べる。</p> <p>(2) 道具を使って調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使われていた道具や施設、働いている人やその働き方などに着目させ考えさせるようにする。 ・発表する際には、考えた根拠にも触れさせる。 ・道具・施設・働いている人を中心に発言内容を分けながらまとめていく。 ・当時の塩作りの様子の写真を提示し調べる。 ・使われていた道具や施設、働いている人、働き方のことについて取り上げ、まとめていくようにする。 ・塩作りの場所は1つの工場のように工夫されていたことを写真を見せながら理解させる。 ・仕事を分担したり、交代したりして協力して塩を作っていたことをとらえさせる。 ・実際に持ってみたり、比べてみたりしてそれぞれの仕事はとても大変であったことを実感できるようにする。 ・水汲みの仕事は、1昼夜に660回も汲み上げたことを知らせ、重労働であったことを感じさせる。 ・子どもと煮子の1日のスケジュール表から、夜通しかけて働いて作っていた苦勞を感じ取らせる。 	<p>写真</p> <p>2斗入り桶</p> <p>現在の子どもと煮子の1日のスケジュール表</p>
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>5 塩作りに多くの時間がかかった理由と、塩作りに携わった人々の苦心や努力についてまとめる。</p> <p>6 次時の活動について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの時間がかかった理由と、塩作りに携わっていた人々の苦心や努力の2つのことについてまとめ、それについての自分の感想をまとめさせ、何人かに発表させる。 ・次時は、なぜこのような製塩方法を行っていたのかについて学習することを知らせる。 	